

市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議の報告及び今後の進め方について

1. 令和4年度「市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議」の報告

- (1) 会議名称 市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議
- (2) 会議委員 藤江園長会会長ほか 計8名(座長;小村子ども未来部長)
- (3) 検討会議 7月26日(火)~2月6日(月) 計4回開催
- (4) ワーキング会議のまとめ ※ 別添参照

市立幼稚園の今後のあり方について
【 現状と課題 】
令和5年(2023)2月
市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議

当該ワーキング会議において、様々なデータ等の調査・分析、現状把握、ワーキング会議委員の意見等から、市立幼稚園のあり方の検討を進めるうえでの課題の整理を行った。

① 社会情勢の変化に伴う市立幼稚園の役割・意義の希薄化への対応

核家族化や共働き世帯が増加する社会における、保護者ニーズの変化に対応した幼児教育・保育の取組の展開・充実が必要である。

保護者からのニーズが高い一時預かり事業の実施継続、支援の必要な幼児や医療的ケア児、外国にルーツのある幼児等の積極的な受入れなど、市の幼児教育をリードする取組を市立幼稚園が率先して担う必要がある。

また、これらの取組を広く知ってもらうための、効果的な、幼稚園の魅力発信・PR方法を検討する必要がある。

② 質の高い幼児教育の提供の維持

園児の減少が進む中であっても、発達段階に応じた、質の高い集団教育・保育を維持するための園児数でクラス編制ができることが望ましい。

③ 集団教育・保育のあり方の検討、見直し

①②を踏まえた集団教育・保育のあり方について検討し、将来的に市立幼稚園の役割が果たせるよう、認定こども園化を含め、教育・保育の提供体制等を見直す必要がある。

2. 今後の進め方(案)

令和5年度には、ワーキング会議で整理した課題等をもとに、幅広い視点により検討するため、有識者や地域選出者等で構成され、教育政策の根幹を審議する「出雲市教育政策審議会」において、「今後の市立幼稚園のあり方」について審議いただき、具体的な計画化を進めたい。

なお、検討を進めるにあたっては、保育所運営を担う組織関係者、子育て世代の保護者や地域などからの意見を伺う必要があると考える。